

# Press Release

令和7年11月25日

報道機関 各位

## 特別公開フォーラムの開催について -散居村を「自然共生」の視点から見直す-

国が定めた「30by30目標」（2030年までに陸と海の30%を保全する目標）など、生物多様性の損失を防ぐ取り組みは、いまや緊急性の高い課題となっています。砺波平野に広がる散居村の景観は、人々の生活の中で育まれてきた文化的な景観ですが、生き物にとっても周囲の山地や森林とつながる重要な空間であり、富山県の生物多様性を支えてきたと考えられます。本フォーラムでは、こうした「自然との共生」という視点から、散居村の価値を改めて見直してみたいと思います。

つきましては、本件について取材・報道方よろしくお取り計らい願います。

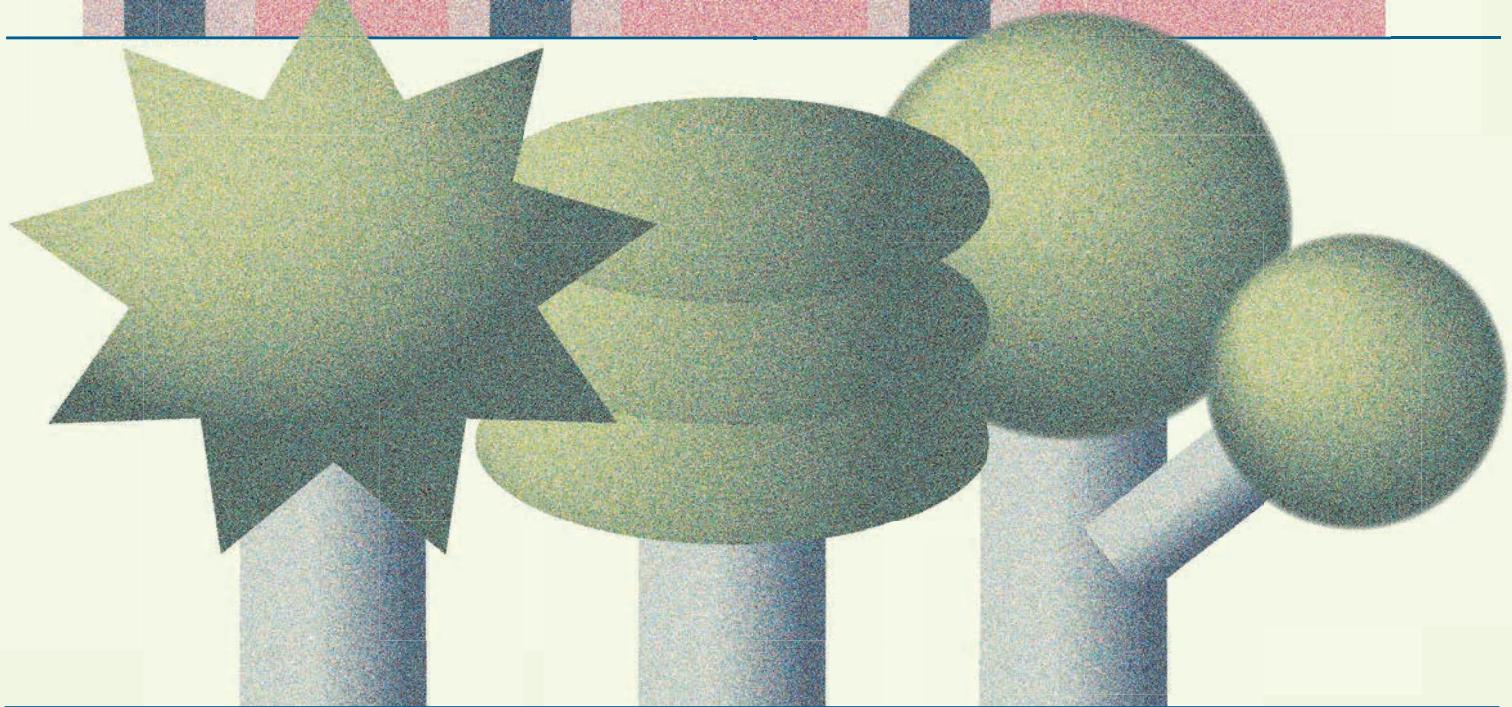
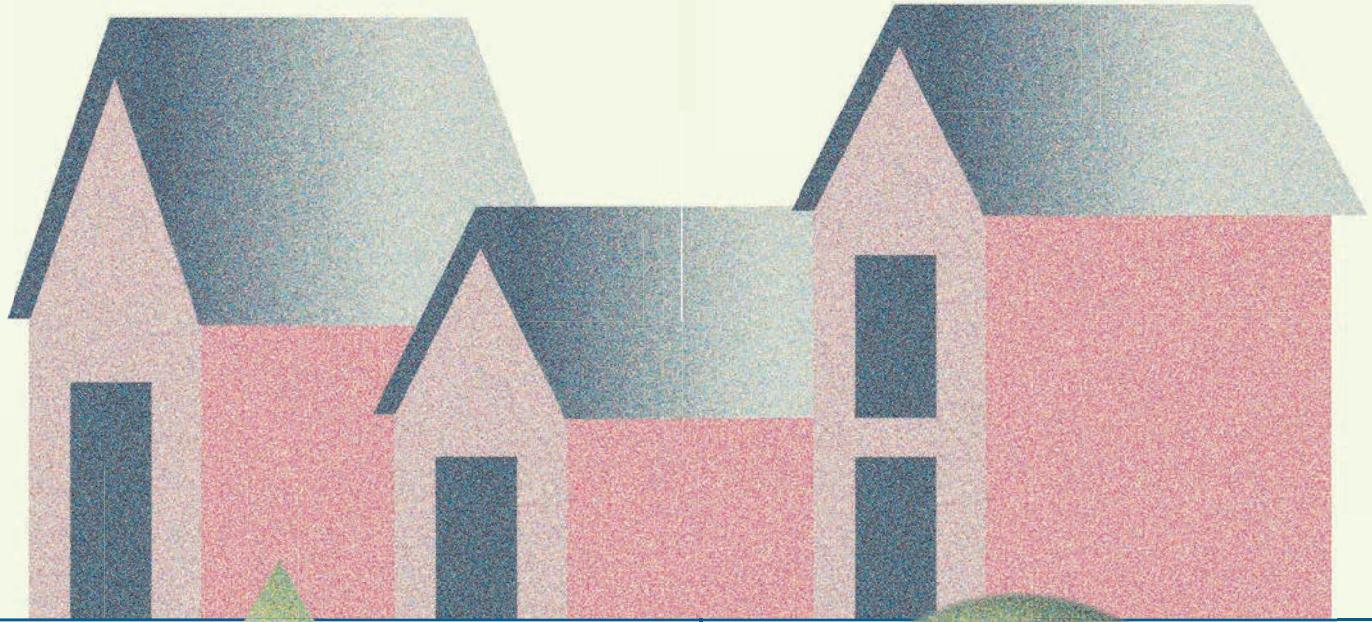
### 記

- 日時 2025年11月29日（土）13:00～16:30（受付開始 12:30）
- 場所 となみ散居村ミュージアム 情報館研修室（砺波市太郎丸80）
- 申込方法 以下URLかQRコードよりお申し込みください。  
<https://forms.office.com/r/ssQgCjnweq>
- 主催 富山大学地域連携推進機構 地域づくり・文化支援部門
- 共催 となみ野散居村サステナブル推進協議会
- 後援 （公財）富山県ひとづくり財団  
一般社団法人 富山県西部観光社 水と匠



### 【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学 五福高岡地区事務部 芸術系総務・学務課（地域連携担当）  
TEL : 0766-25-9138 Email : [tiikiko@adm.u-toyama.ac.jp](mailto:tiikiko@adm.u-toyama.ac.jp)



令和7年度 富山大学地域連携推進機構 地域づくり・文化支援部門 特別公開フォーラム

## 散居村を「自然共生」の視点から見直す

日時： 2025年11月29日(土) 13:00～16:30（受付開始 12:30）

会場： となみ散居村ミュージアム 情報館研修室（砺波市太郎丸80）

主催： 富山大学 地域連携推進機構 地域づくり・文化支援部門

共催： となみ野散居村サステナブル推進協議会

後援： 公益財団法人 富山県ひとづくり財団、一般社団法人 富山県西部観光社 水と匠



30by30目標\*が国として定められるなど、生物多様性の損失を止めるための取り組みは緊急性の高い課題となっています。砺波平野に広がる散居村の景観は、人々の生活のために育まれてきた文化的な景観ですが、生き物にとつても周囲の山地、森林との接続が保たれた空間であり、富山県の生物多様性を育んできたと考えられます。本フォーラムによりそうした「自然との共生」の視点から、散居村の価値を見直してみたいと思います。

\* 2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする国際的な目標。日本でもこれを目標に、国や民間の取組によって生物多様性の保全が図られている区域を広げていくこととしています。

## プログラム

### 第1部 報告

**趣旨説明**：砺波平野散居村の保全の現状と新たな動向について

奥 敬一（富山大学芸術文化学部 教授 富山大学 地域づくり・文化支援部門長）

**基調報告**：屋敷林の生物生息環境について

伊勢 武史（京都大学 フィールド科学教育研究センター 准教授）

### 第2部 パネルディスカッション：砺波平野散居村の自然共生サイトとしての価値

#### 話題提供

話題提供1：「自然共生サイト」とは

鈴木 祥之（環境省信越自然環境事務所国立公園課 国立公園企画官）

話題提供2：自然共生サイト「YKK ふるさとの森」について

村重 誠吾（YKK 株式会社 環境・安全・施設管理部 環境管理室 環境推進グループ長）

#### ディスカッション

報告者4名（伊勢、鈴木、村重、奥）

座長：林口 砂里（一般社団法人 富山県西部観光社 水と匠）

## 申し込み

**参加費無料：定員 70 名**

**締切：11月27日(木)**

氏名、連絡先ご記入の上、チラシ下部に記載された連絡先、または、下記二次元コードからお申し込みください。

## 問い合わせ

富山大学 五福高岡地区事務部 芸術系総務・学務課 地域連携担当

電話：0766-25-9138

E-mail：tiikiko@adm.u-toyama.ac.jp

申し込みは  
こちら



リサイクル適性Ⓐ  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。